

日本水産株式会社 第101期定時株主総会



第101期定時株主総会の開催について

2016年6月28日(火)ロイヤルパークホテルを会場として第101期定時株主総会を下記のとおり開催いたしました。なお総会での報告にあたって使用いたしました補足資料の概要ならびに株主様からいただいたご意見・ご質問の要旨をご参考までに次ページ以降に掲載いたします。

記

1. 開会：2016年6月28日(火) 10時00分 終了時刻：11時17分

2. 当日出席株主数：598名

3. 議案：

[報告事項]

1. 第101期(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)事業報告の内容、連結計算書類の内容ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件

2. 第101期(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)計算書類の内容報告の件

[決議事項]

第1号議案 取締役9名選任の件

第2号議案 監査役1名選任の件

議案は提案のとおりとして承認可決されました。

日本水産株式会社 第101期定時株主総会



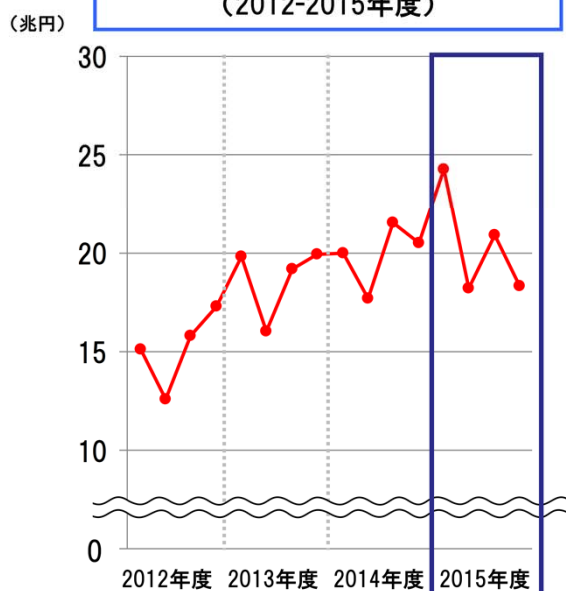
(1)事業の経過および成果の概要

当期における事業環境



■ 企業収益の改善

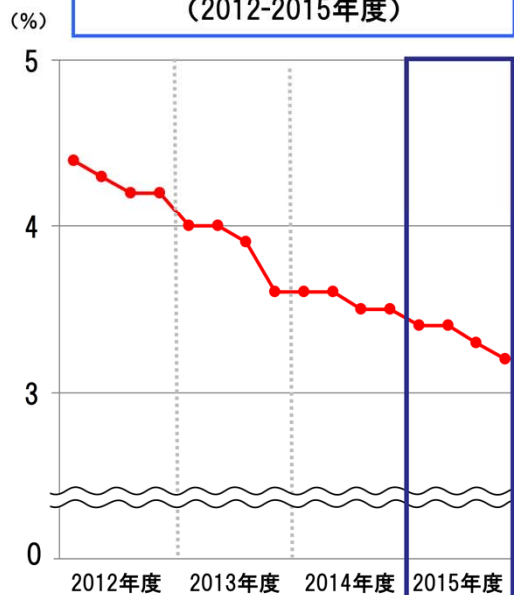
企業経常利益(全産業)の四半期推移
(2012-2015年度)



Source: 財務省

■ 失業率の改善

完全失業率の四半期推移
(2012-2015年度)

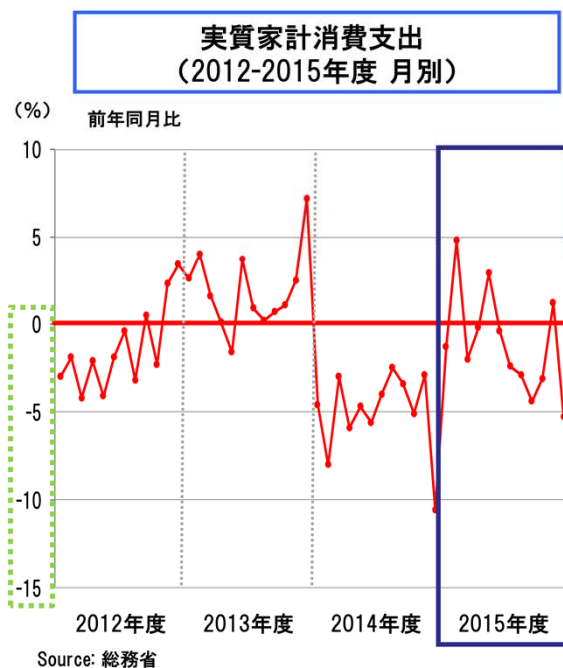


Source: 内閣府

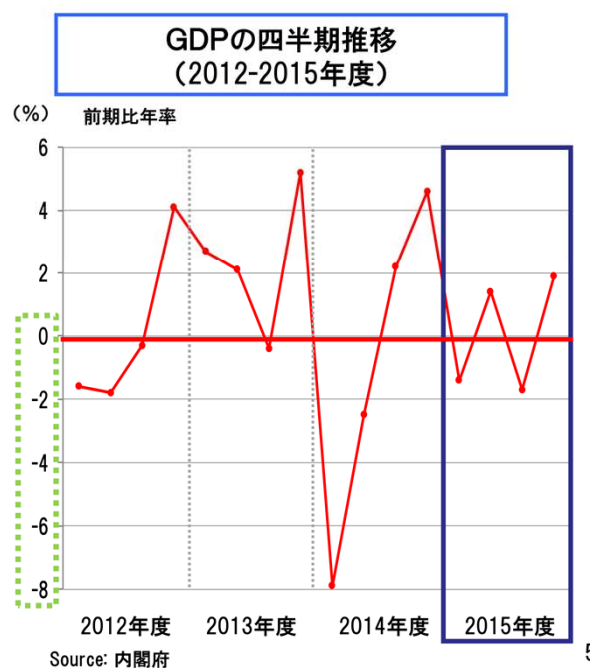
4

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益と雇用情勢の改善が続きました。

■ 個人消費に停滞感



■ 日本経済の先行き不透明



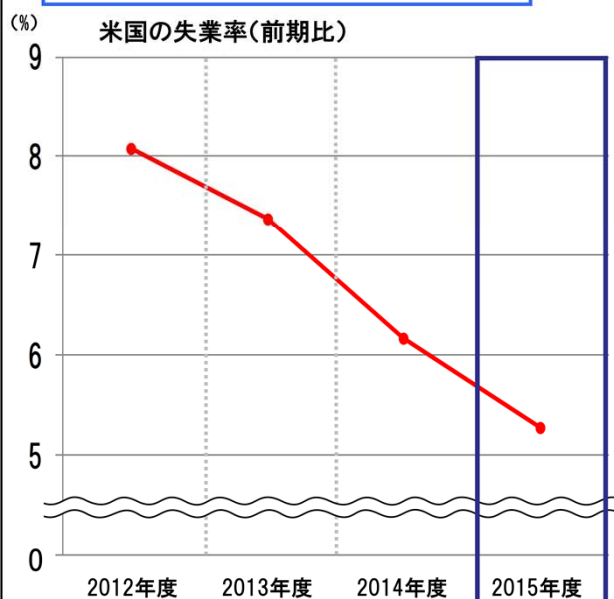
一方、昨年末頃より個人消費に停滞感が見られるなど、先行き不透明な状況にありました。

当期における事業環境



■ 米国の失業率の推移

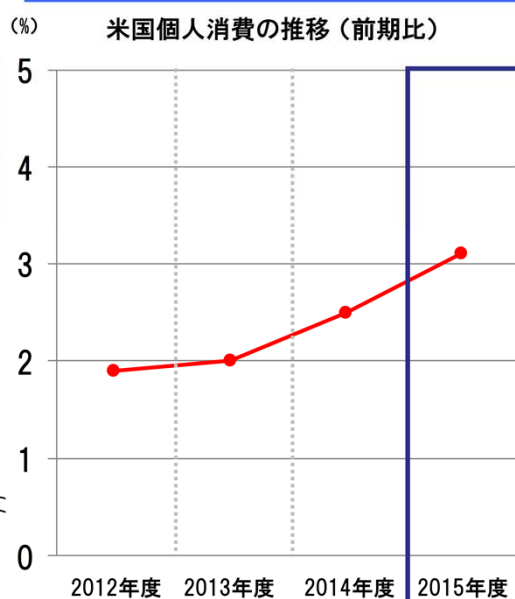
失業率の改善（2012-2015年度）



Source: 内閣府（海外は1-12月）

■ 米国の個人消費の推移

個人消費の増加（2012-2015年度）



Source: Bureau of Economic Analysis（海外は1-12月）

6

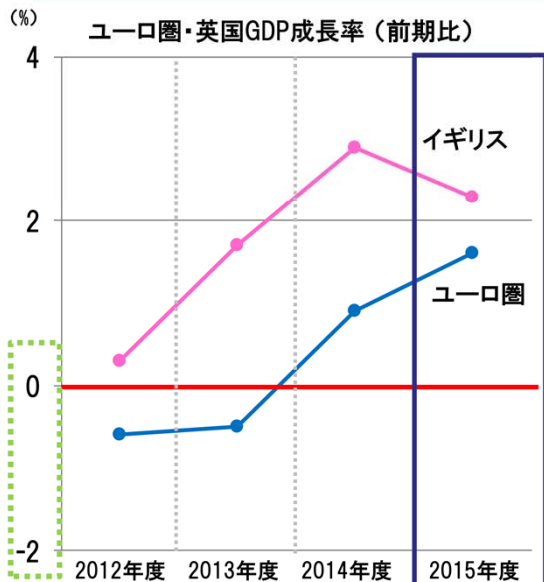
世界経済(連結対象期間1-12月)につきましては、米国では民間の設備投資の伸びが鈍化したものの、引き続き雇用の改善や個人消費の増加が見られました。

当期における事業環境



■ 欧州の経済状況

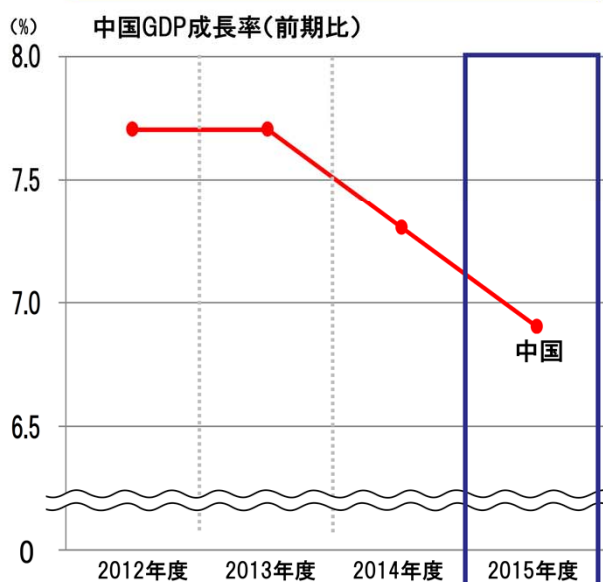
欧州では景気は緩やかな回復基調
(2012-2015年度)



Source: 内閣府(海外は1-12月)

■ 中国の経済状況

中国では景気は緩やかに減速
(2012-2015年度)



Source: 内閣府(海外は1-12月)

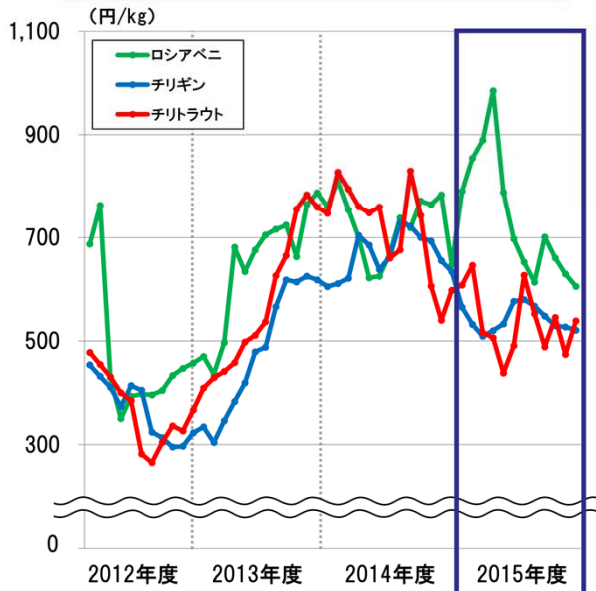
欧州では景気は緩やかな回復基調が続きましたが、アジアでは中国において景気は緩やかに減速しました。

2015年度の事業環境



■ 鮭鱒の輸入通関価格推移

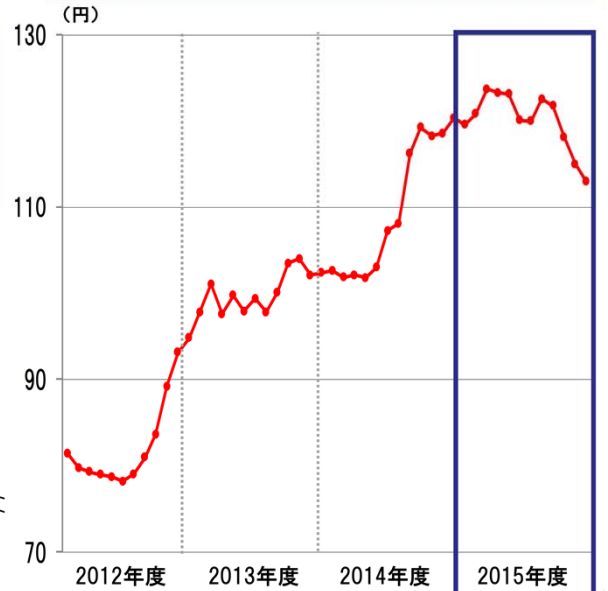
鮭鱒の輸入通関価格の大幅下落



Source: 財務省

■ 為替推移(対US\$)

円安基調の継続



Source: 日本銀行

当社および当社グループにおきましては、水産事業では南米の鮭(さけ)鱒(ます)養殖事業において販売価格の大幅下落などもあり、厳しい事業環境となりました。食品事業では国内で円安基調継続による原材料や加工製品などの輸入コストの上昇がありましたが、価格改定やコストダウンに努め、北米・欧州でも景気が回復基調のなか売上が伸長し、総じて好調に推移しました。

財産および損益の状況(連結)



■ 当期(第101期・平成27年度)

	当期	前期比増減	
売上高	6,371億 64百万円	▲12億 70百万円	▲99.8%
営業利益	194億 42百万円	+13億 32百万円	107.4%
経常利益	206億 96百万円	▲6億 95百万円	▲96.7%
当期純利益	119億 83百万円	+17億 6百万円	116.6%
期末配当	3円	-	-

	当期	前期	前期比増減
年間配当	5円	3円	+2円

9

このような状況下で、当連結会計年度における営業成績は、
 売上高は **6,371億64百万円**
 (前期比**12億70百万円減**)、
 営業利益は**194億42百万円**
 (前期比**13億32百万円増**)、
 経常利益は**206億96百万円**
 (前期比**6億95百万円減**)、
 親会社株主に帰属する当期純利益は
119億83百万円(前期比**17億6百万円増**)
 となり、期末配当金は**1株につき3円**と致しました。

事業の概況

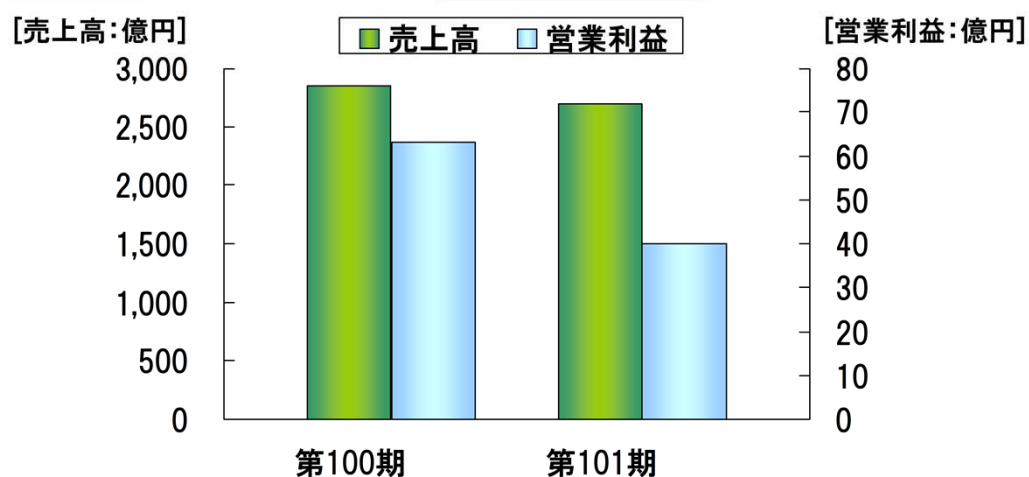
引き続きまして、事業の概況につきご説明いたします。

事業別の業績[水産事業]



■ 売上高・営業利益の推移

	第100期	第101期	前期比増減額
売上高	2,848億 84百万円	2,696億 23百万円	▲152億 60百万円
営業利益	62億 97百万円	40億 42百万円	▲22億 54百万円



11

水産事業につきましては、漁撈事業、養殖事業、加工・商事事業を営んでおり、売上高は**2,696億23百万円** (前期比**152億60百万円減**)となり、営業利益は**40億42百万円** (前期比**22億54百万円減**)となりました。

事業別の業績[水産-漁撈事業・養殖事業]



■ 漁撈事業 減収・減益

日本の漁撈事業

原油安により燃料費が減少したことに加え、ぶりやいわしなどの販売数量が増加



第88光洋丸



鳥取県境港を拠点とする共和水産株式会社

■ 養殖事業 減収・減益

日本のぶり養殖事業

販売価格が弱含みで推移したことに加え、飼料の高騰により生産コストが上昇したものの、販売数量は大幅に増加



南米の鮭鱒養殖事業

飼料の高騰による生産コストの上昇、魚病の影響に加え、販売価格の大幅下落



12

漁撈事業では、

日本において、原油安により燃料費が減少したことに加え、ぶりやいわしなどの販売数量が増加しました。

南米において、ほき、南だらの漁獲が低調となり、販売数量が減少しました。

養殖事業では、

日本において、ぶり養殖事業は、販売価格が弱含みで推移したことに加え、飼料の高騰により生産コストが上昇しましたが、販売数量は大幅に増加しました。また、まぐろ養殖事業は、販売価格は堅調に推移したものの、販売数量は減少しました。

南米において、鮭(さけ)鱒(ます)養殖事業は、飼料の高騰による生産コストの上昇や魚病の影響に加え、販売価格が大きく下落したことにより、大変厳しい事業環境となりました。

事業別の業績[水産-加工・商事事業]

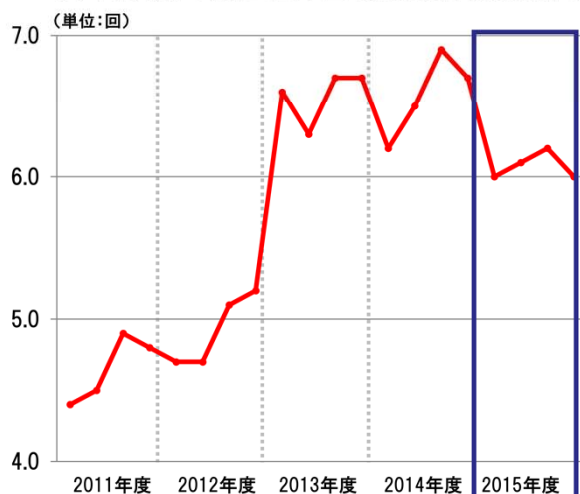


■ 加工・商事事業 減収、増益

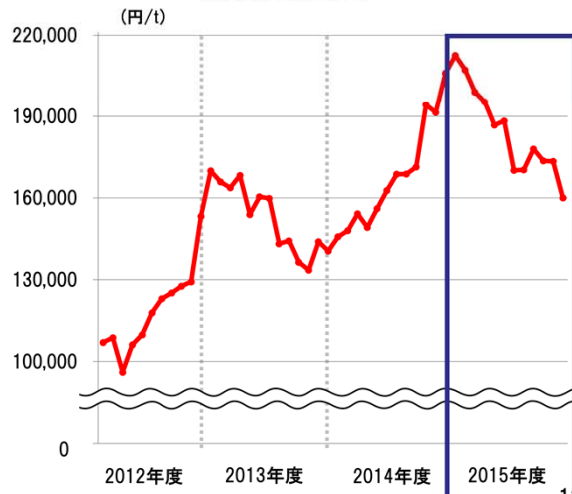
日本の加工・商事事業

適正な在庫水準の維持に加え、魚粉やまぐろの販売価格が上昇

ニッスイ個別の水産在庫回転数(飼料油飼除く)



魚粉価格動向



加工・商事事業では、

日本において、販売に合わせて適正な在庫水準を維持したことに加え、魚粉やまぐろなどの販売価格が上昇しました。

事業別の業績[水産-加工・商事事業]



■ 加工・商事事業 減収、増益

北米の加工事業

すけそうだらのフィレの販売数量および助子の生産数量が減少したものの、すりみは生産数量の増加に加え、販売価格も上昇



UniSea社
アラスカ・ダッチハーバー工場



すりみの製造工程

欧州の商事事業

販売は前期並みに推移したものの、為替の影響により、売上・利益ともに減少



Nordic本社工場

14

北米において、すけそうだらのフィレの販売数量および助子の生産量が減少しましたが、すりみは生産量の増加に加え、販売価格も上昇しました。

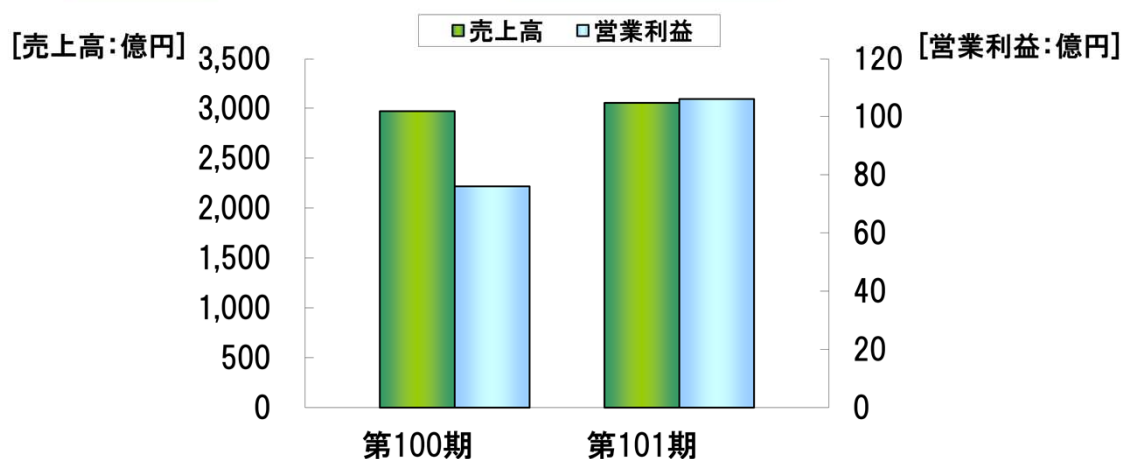
ヨーロッパにおいて、販売は前期並みに推移したものの、為替の影響により売上・利益ともに減少しました。

事業別の業績[食品事業]



■ 売上高・営業利益の推移

	第100期	第101期	前期比増減額
売上高	2,969億 54百万円	3,054億 41百万円	+84億 87百万円
営業利益	75億 93百万円	106億 37百万円	+30億 43百万円



15

食品事業につきましては、加工事業およびチルド事業を営んでおり、
 売上高は**3,054億41百万円**
 (前期比**84億87百万円**増)となり、
 営業利益は**106億37百万円**
 (前期比**30億43百万円**増)となりました。

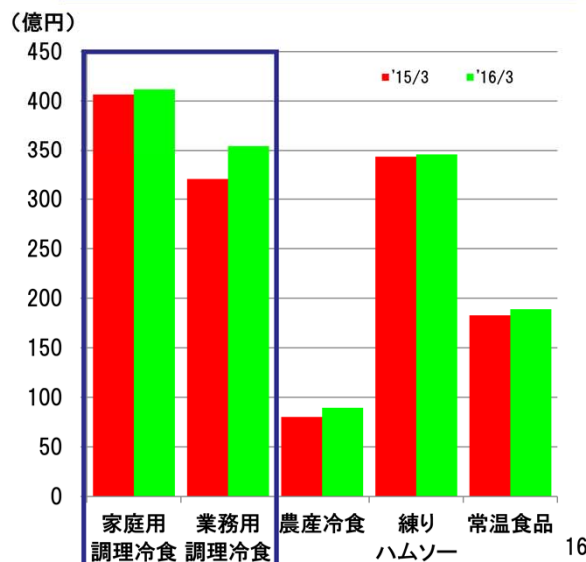
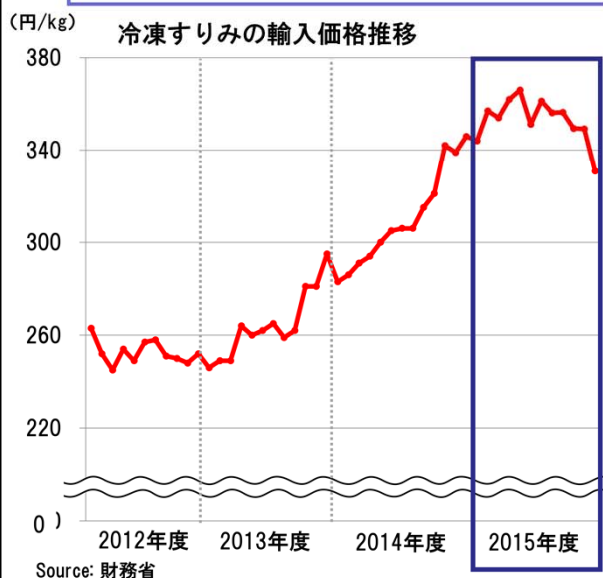
事業別の業績[食品-加工事業]



加工事業 増収、増益 日本の加工事業

円安の影響により、原材料や加工品などの輸入コストの上昇

家庭用冷凍食品・業務用冷凍食品などの販売が好調



加工事業では、

日本において、円安の影響により、原材料や加工製品などの輸入コストの上昇がありましたが、価格改定やコストダウンなどに努め、家庭用冷凍食品・業務用冷凍食品などの販売が好調に推移しました。

事業別の業績[食品-加工事業・チルド事業]



■ 加工事業 増収、増益 北米の加工事業

家庭用冷凍食品は厳しい販売競争となりましたが、業務用冷凍食品では主原料のえびの価格が下落したことに加え、大手レストランチェーン向け販売が順調

Gorton's社
(家庭用冷凍食品)



King & Prince Seafood社(業務用冷凍食品)



■ チルド事業 増収、増益 日本のチルド事業

コンビニエンスストア向けチルド弁当やサラダなどの販売伸長や生産性の向上



上:日本クッカーリー船橋工場(チルド)
下:チルド製造工程

17

北米において、家庭用冷凍食品会社は、工場集約などの効果は見られたものの、他社との厳しい販売競争の中、主力商品の伸びが足りず、減益となりました。

業務用冷凍食品会社は、主原料のえびの価格が下がったことに加え、大手レストランチェーン向け販売が順調に推移しました。

ヨーロッパにおいて、新たに生産ラインを増強するとともに、水産チルド品を中心に販売数量が増加しました。

チルド事業では、

日本において、コンビニエンスストア向けチルド弁当やサラダなどの販売が伸長し、生産性も向上しました。

事業別の業績[ファイン事業]

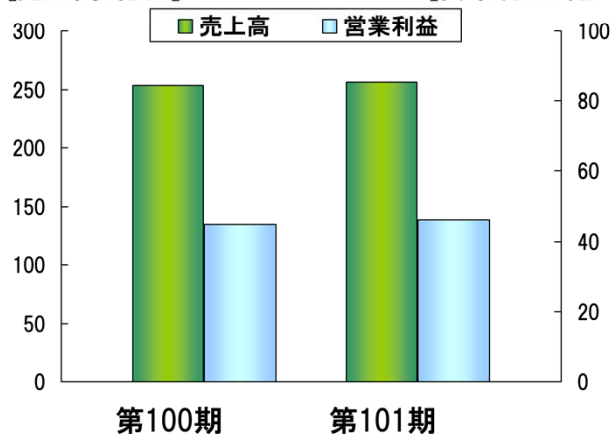


■ 売上高・営業利益の推移

	第100期	第101期	前期比増減額
売上高	253億 24百万円	256億 83百万円	+3億 58百万円
営業利益	45億 56百万円	46億 33百万円	+77百万円

[売上高:億円]

[営業利益:億円]



鹿島医薬品工場(稼働予定:2018年)

18

ファイン事業につきましては、医薬原料、機能性原料、機能性食品、および医薬品、診断薬の生産・販売を行っており、

売上高は**256億83百万円**

(前期比**3億58百万円**増)となり、

営業利益は**46億33百万円**

(前期比**77百万円**増)となりました。

事業別の業績[ファイン事業]



<p>医薬原料</p> <p style="text-align: center;">医薬品</p> <p>魚油を高純度に精製して製薬会社へ医薬品原料として供給</p>	<p>機能性原料</p> <p style="text-align: center;">サプリメントなど</p> <p>魚油を精製して、他社の健康食品の原料として供給</p>
<p>機能性食品</p> <p>当社の健康食品のラインアップ</p>	<p>臨床診断薬・産業検査薬</p> <p>細菌検査用試薬 マイコプラズマ遺伝子検出キット</p>

医薬原料において後発品使用促進策の影響があり、販売数量が減少しましたが、臨床診断薬、産業検査薬などにおいて、販売が堅調に推移しました。

事業別の業績[物流事業]

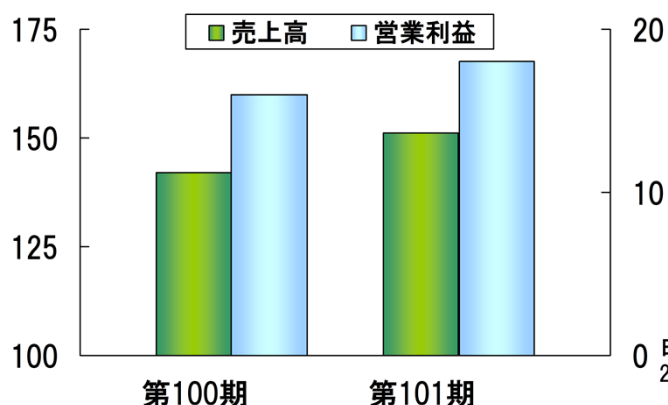


■ 売上高・営業利益の推移

	第100期	第101期	前期比増減額
売上高	142億 15百万円	151億 87百万円	+9億 71百万円
営業利益	16億 71百万円	18億 54百万円	+1億 82百万円

[売上高:億円]

[営業利益:億円]



日水物流・大阪舞洲物流センター(設備能力:約25,400ト) 2016年3月竣工、同4月より営業開始

20

物流事業につきましては、冷蔵倉庫事業、配送事業、通関事業を営んでおり、冷蔵倉庫事業において入出庫料収入が減少したものの、保管料収入などが増加しましたので、

売上高は**151億87百万円**

(前期比**9億71百万円**増)となり、

営業利益は**18億54百万円**

(前期比**1億82百万円**増)となりました。

以上ご報告申し上げます。

(2)対処すべき課題

→お手許の招集ご通知の6～9ページをご覧ください

引き続きまして、対処すべき課題のご説明を致します。
招集ご通知の6ページから9ページをご覧下さい。

■ **変化に対応し、**

差別化できる独自の技術力を持つメーカーをめざします

- ① **成長に向けた積極的な投資**
- ② **資源アクセス力の強化**
- ③ **健康機能食品・高付加価値商品の提供**
- ④ **海外でのパフォーマンスの拡大**
(北米・ヨーロッパに続きアジアに注力)

創業以来受け継いできた5つの企業遺伝子



CSRに根差した経営を推進し、広く社会に貢献すると共に、財務体質を強化し企業価値を高めてまいります。

→ お手許の招集ご通知の**6ページ**をご覧ください

22

当社および当社グループにおいて、平成27年度は中期経営計画「MVIP2017」(平成27年度～29年度)の初年度であり、南米の鮭(さけ)鱒(ます)養殖事業が販売価格下落により苦戦しましたが、食品事業の伸長もあり、計画を上回る進捗となりました。平成28年度は、鮭(さけ)鱒(ます)等水産物市況の動向も不透明であり、引き続き厳しい事業環境であることが想定されますが、中期経営計画「MVIP2017」が目指す姿の実現に向けて引き続き取り組んでまいります。

中期経営計画「MVIP2017」において、

当社および当社グループは、変化に対応し、差別化できる独自の技術力を持つメーカーを目指します。そのため、

- ①成長に向けた積極的な投資、
- ②資源アクセス力の強化、
- ③健康機能食品・高付加価値商品の提供、
- ④海外でのパフォーマンスの拡大(北米・ヨーロッパに続きアジアに注力)に取り組みます。

また、当社は、「使命感」・「イノベーション」・「現場主義」・「グローバル」・「お客様を大切にする」という、

創業以来受け継いできた5つの企業遺伝子のもと、CSRに根差した経営を推進し、広く社会に貢献すると共に、財務体質を強化し企業価値を高めてまいります。

■ 戦略展開のポイント

事業の枠を超え
事業境目領域で融合・連携
を深め拡大し成長する

FC事業

- ・医薬品の拡大
- ・機能性原料の海外展開
- ・機能性食品の拡大

海外(グループ)

和食を中心とした成長

食品事業

- ・No1カテゴリーの進化
- ・新カテゴリーでの惣菜型商品展開

通信販売

魚油

機能性表示食品

- ・調味料
- ・近海魚の活用
- ・水産品食材化
- ・惣菜(HMR)、メニュー
- ・鮭鱒・魚卵の拡大
- ・すりみの利用拡大
- ・海外販売

水産事業

- ・養殖事業の深化
- ・養殖鮭鱒の拡大
- ・短期養殖の事業化

エンジニアリング

海洋事業

ロジスティックス

R&D: 開発機能の強化、養殖技術の深化、工場ラインの最適化

QA: フードディフェンスの深化 CSR: コーポレートガバナンス強化、コーポレートブランド検討

→ お手許の招集ご通知の7ページをご覧ください

主な事業戦略として、水産、食品、ファインケミカルの主要3事業の個々の強化に加え、それぞれの事業領域の境目となる分野で融合を進めることで、より高い成果を目指します。

ファインケミカル事業をさらに先鋭化させると共に、長年培ってきた水産事業を核としつつ、水産および食品事業の連携をさらに強化することで成長を実現していきます。

中期経営計画MVIP2017の数値目標



● Key Performance Indicator(重要業績評価指標)

KPI(連結)	2017計画	2015実績
(億円) 売上高	6,800 以上	6,371
営業利益	230 以上	194
EBITDA	415 以上	366
自己資本比率	25% 以上	20.2%
ROA	3.5% 以上	3.1%
借入金	2,400 以下	2,326

※ROA = 「当期純利益」+「支払利息」×(1-実効税率) / [(前期末「資産合計」+当期末「資産合計」)÷2]

→ お手許の招集ご通知の8ページをご覧ください

→ 中期経営計画「MVIP2017」における主要事業および財務・配当戦略につきましては、お手許の招集ご通知の8~9ページをご覧ください

24

中期経営計画「MVIP2017」では、

連結売上高 **6,800**億円以上

連結営業利益 **230**億円以上

EBITDA **415**億円以上

自己資本比率 **25%**以上

ROA **3.5%**以上

有利子負債額 **2,400**億円以下

を目標としております。

中期経営計画「MVIP2017」における主要事業及び財務・配当戦略につきましては、お手許の招集ご通知に記載のとおりでございますので、ご説明を省略させていただきます。

- (3) 設備投資の状況
- (4) 資金調達の状況
- (5) 直前3事業年度の財産および損益の状況
- (6) 重要な子会社の状況
- (7) 主要な事業内容
- (8) 主要な営業所および工場
- (9) 従業員の状況
- (10) 主要な借入先の状況
- (11) その他企業集団の現況に関する重要な事項

→ お手許の招集ご通知の9～12ページをご覧ください

- (1) 株式の状況
- (2) 会社役員の状況
- (3) 会計監査人の状況
- (4) 業務の適正を確保するための体制
- (5) 会社の支配に関する基本方針
- (6) 剰余金の配当等の決定に関する方針

→ お手許の招集ご通知の13ページ～26ページをご覧ください

第101期末連結貸借対照表(前期末比)



		主な増減要因(単位:億円)			
流動資産 2,174 (▲142)	流動負債 2,123 (+0)	資産 ▲151	流動資産 ▲142	受取手形及び売掛金	▲26
				棚卸資産	▲22
固定資産 2,266 (▲9)	固定負債 1,229 (▲197)	負債 ▲197	固定資産 ▲9	現金及び預金	▲18
				その他	▲71
総資産 4,441 (▲151)	純資産 1,088 (+45) うち自己資本 897 (+44)		流動負債 +0	有形固定資産	+44
				無形固定資産	▲14
			固定負債 ▲197	投資その他の資産	▲39
			純資産 +45	短期借入金	▲23
				未払法人税等	+9
				その他	+6
				長期借入金	▲192
				利益剰余金	+114
				その他有価証券評価差額金	▲27
				繰延ヘッジ損益	▲10
				為替換算調整勘定	▲32
				退職給付に係る調整累計額	+0

自己資本比率 '15/3 18.6% ⇒ '16/3 20.2%

()内の数字は前期末比増減

→ お手許の招集ご通知の27ページをご覧ください

総資産は4,441億円で、前期末比約151億円減少いたしました。

総負債は3,353億円で、前期末比約197億円減少いたしました。

純資産は1,088億円で、前期末比約45億円増加いたしました。

■ 連結損益計算書

■ 連結株主資本等変動計算書

→ お手許の招集ご通知の28ページ～29ページをご覧ください

■ 貸借対照表(個別)

■ 損益計算書(個別)

■ 株主資本等変動計算書(個別)

→ お手許の招集ご通知の30ページ～32ページをご覧ください

議案の上程

→ お手許の招集ご通知の37ページ～44ページをご覧ください

第1号議案

取締役9名選任の件

→ お手許の招集ご通知の37ページ～43ページをご覧ください

- 平成28年6月28日の本総会終結をもって取締役9名全員が任期満了となります。

つきましては、取締役9名の選任をお願いいたしたいと存じます。

→ お手許の招集ご通知の37ページ～43ページをご覧ください

■ 取締役候補者氏名

- | | |
|-------------|--------------|
| ①細見 典男 (重任) | ⑥高橋 誠治 (重任) |
| ②小池 邦彦 (重任) | ⑦山本 晋也 (重任) |
| ③的埜 明世 (重任) | ⑧木下 啓史郎 (重任) |
| ④関口 洋一 (重任) | ⑨春木 二生 (重任) |
| ⑤大木 伸介 (重任) | |

→ お手許の招集ご通知の37ページ～43ページをご覧ください

第2号議案 監査役1名選任の件

→ お手許の招集ご通知の43～44ページをご覧ください

■ 監査役候補者氏名

広瀬 史乃（新任）

→ お手許の招集ご通知の43～44ページをご覧ください

第101期定時株主総会において、8名の株主様より次の事項についてご発言がありました。

【質問事項】

1. 南米の養殖事業について
2. 養殖事業全般について
3. 医薬品EPAの海外展開について
4. 会計監査人の再任について
5. 配当性向に係る数値目標について
6. イギリスのEU離脱による影響について
7. 女性活用について
8. 有利子負債に係る数値目標について
9. 他社との株価の比較について
10. 借入金に係る金利について